日本語DOS
ユーザーズ・ガイド入門編

IBMパーソナルシステム/55™

N:SC18-2160-1

日本語DOS
ユーザーズ・ガイド入門編

IBMパーソナルシステム/55™

N:SC18-2160-1

第 2 版　1987年 9月

このマニュアルは，製品の改良その他により適宜改訂されます。

© Copyright International Business Machines Corporation 1987

まえがき

本書は日本語 DOS の入門書です。日本語 DOS を始動することにより，IBM パーソナルシステム/55*を日本語パーソナル・コンピューターとしてお使いいただけます。第 2 版で新しく追加，変更された箇所は，ページの左側に縦線を入れて示しています。

本書をお読みになる前に

- 次の資料を読んで，システムの操作ができるようにしてください。

  各システムに付属の操作ガイド

- 次の学習プログラムを使って，DOS の概念と基本的な操作を学んでください。

  EXPLORING　パーソナルシステム/55

- ハード・ディスク付きのシステムの場合は，次の資料を参照して，DOS をハード・ディスクに導入してください。

  ハード・ディスクをお使いいただくために，N:SC18:2004

本書の内容と対象読者

本書は，DOS に関する知識をお持ちでない方を対象としています。本書を終了すると，以下のことができるようになります。

- DOS を始動し，終了する
- バックアップ・ディスケットを作成する
- 購入したディスケットをフォーマットする

* 「パーソナルシステム/55」は IBM Corp.（米国）の商標です。

- 基本的なDOSコマンドを使ってファイルを管理する
- テキスト・ファイルを作成する

その他の関連マニュアル

日本語DOSマニュアルとして，以下のマニュアルが準備されています。

- <u>**日本語DOSユーザーズ・ガイド　参照編**</u>，N:SC18-2175

  入門編を終了した読者を対象に，DOSコマンドの使い方のすべてを説明しています。また，付録に日本語DOSのメッセージ一覧を載せています。

- <u>**日本語DOSクイック・ガイド**</u>，N:SX18-2199

  すべてのDOSコマンドをポケット・サイズのマニュアルにまとめたものです。詳しい説明は省いていますが，一度覚えたDOSコマンドの使い方を簡単に調べることができます。

- <u>**日本語DOSの内部構造とプログラム・インターフェース**</u>，N:SC18-2176（別売り）

  プログラマーを対象とした，DOSの技術解説書です。

日本語DOSをお使いになるためのシステム

日本語DOSをお使いになるためには，以下のものが必要です。

- システム・ユニット
- キーボード
- ディスプレイ

以上の他に，**新しいディスケットを数枚**ご用意ください。本書ではこのディスケットを使って，実際にDOSを使用しながら説明を加えていきます。

目　次

基礎コース

第１章　DOSの始動と画面の見方　1-1

1. DOSを始動しましょう。　1-2
2. メニュー画面の見方　1-4
3. 機能を実行するには……。　1-6
4. DOSコマンドについて。　1-8
5. DOSを終了しましょう。　1-10

第２章　DOSを活用するための準備　2-1

1. ディスケットのバックアップとフォーマットについて。　2-2
2. ディスケットを複写しましょう。（DISKCOPYコマンド）　2-4
3. 正しく複写できたか確認しましょう。（DISKCOMPコマンド）　2-6
4. フォーマットをしましょう。（FORMATコマンド）　2-8

第３章　ファイルについて　3-1

1. ファイルとは……。　3-2
2. ディスケットの内容を調べましょう。（DIRコマンド）　3-4
3. ファイルの内容を見てみましょう。（TYPEコマンド）　3-6
4. 各ファイルの役割　3-8

第４章　ファイルの作成と編集　4-1

1. 文字の入力方法　4-2
2. ファイルを作りましょう。　4-8
3. ファイルを修正しましょう。　4-10

目次（つづき）

第５章　基本的なDOSコマンド　5-1
1．ファイルを複写しましょう。（COPYコマンド）　5-2
2．ファイルの内容を比較しましょう。（COMPコマンド）　5-4
3．ファイルの削除（DELコマンドとERASEコマンド）　5-6
4．ファイルの内容を印刷しましょう。（PRINTコマンド）　5-8
5．1行の文字数や行間は変更できます。（MODEコマンド）　5-10
6．ファイル名を変更しましょう。（RENAMEコマンド）　5-12

付録　付-1
1．特定のプリンターを使用する場合の措置　付-2
2．時計機能を使用するには……。　付-4
3．メニューを表示しないようにするには……。　付-6
4．他のドライブにあるプログラムを実行するには……。　付-8
5．JIS'83年版のフォントを使用するには……。　付-10
6．用語集　付-12

索引　索-1

第1章　DOSの始動と画面の見方

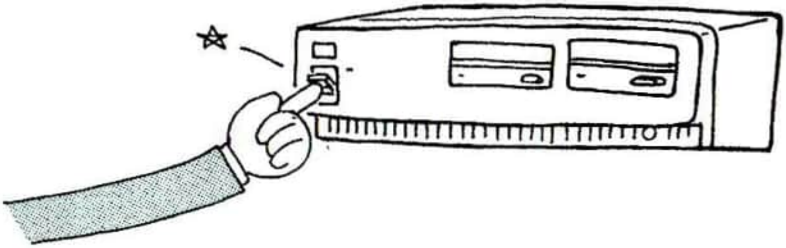
この章では，DOS の始め方と終わり方，および表示
されるメニュー画面の見方について説明します。

1. DOSを始動しましょう。

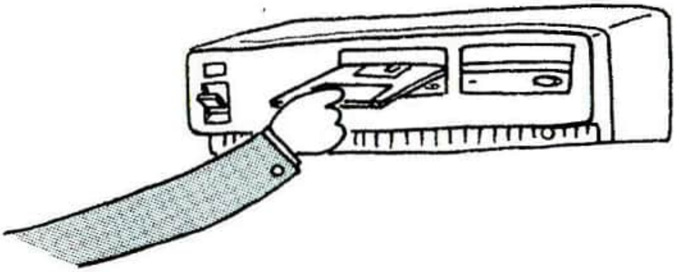
DOSを使うためには，まず，DOSプログラムをディスケットまたはハード・ディスクからシステム・ユニットの記憶域に読み取ります。このことを「DOSを始動する」，または「DOSをロード（LOAD）する」と呼びます。

早速DOSを始動しましょう。なお，DOSのディスケットは複数枚ありますが，ここでは1枚目のものだけを使用します。この章の中で「DOSディスケット」と書いてある場合は，すべて1枚目のディスケットを指しています。

システム・ユニットの電源を入れてください。

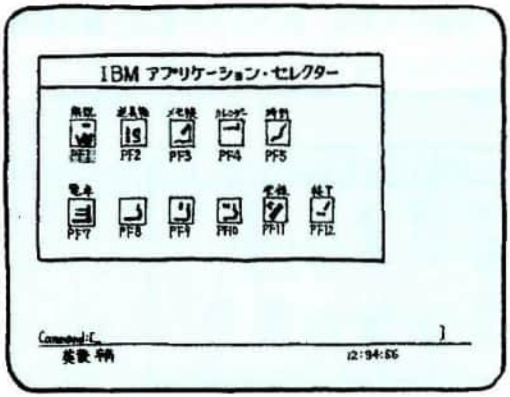


ディスケット・ドライブのシステムの場合は，DOSディスケットをディスケット・ドライブA（左側）に差し込んでください。



注）DOSはどのドライブからでも始動できますが，本書では，特に指定のない限り，ドライブAにDOSディスケットを入れることにします。

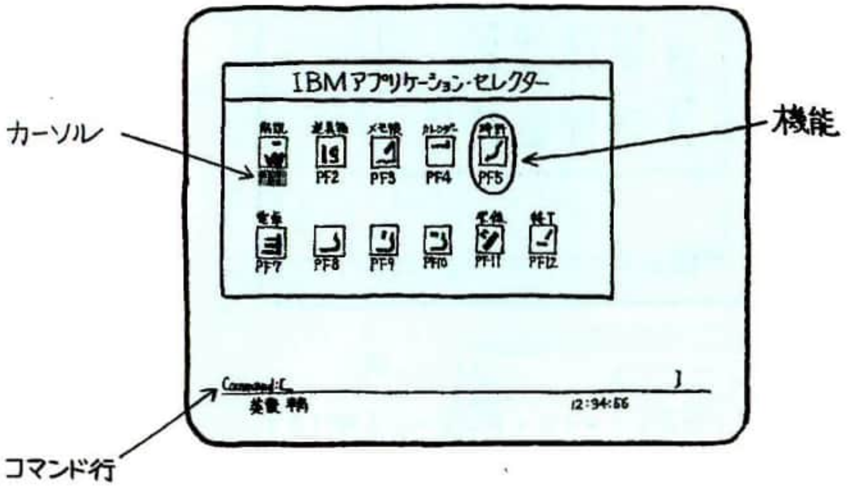
DOS がシステム・ユニットの記憶域に読み込まれます。読み込みが終了すると，次の画面が表示されます。



この画面を「**メイン・メニュー**」と呼びます。

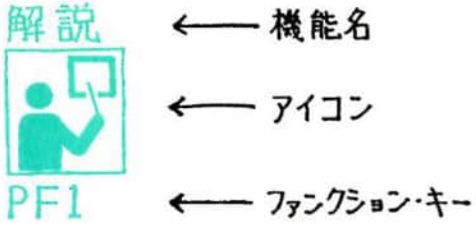
2. メニュー画面の見方

メニュー画面の各部は，次のような名前と働きを持っています。



● 機能

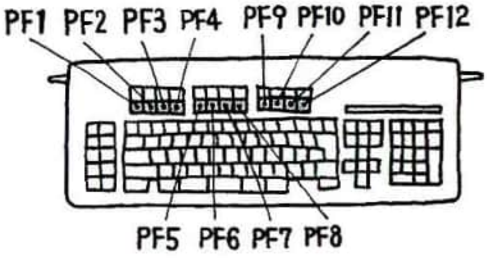
メニューから選択できる機能を，機能名，アイコン，およびファンクション・キーで示しています。



機能名が表示されている機能が，選択できます。すなわち，メイン・メニューでは，「解説」，「道具箱」，「メモ帳」，「カレンダー」，「時計」，「電卓」，「登録」，「終了」の各機能が選択実行できます。

注）「時計」機能に関しては，購入したばかりの DOS では使えません。これを使えるようにする方法は，次章と付録で説明します。

PF1～PF12 のファンクション・キーは，機能を選択するのに主として使われるキーです。（キーボードによっては下図の配列と異なる場合があります。キー操作ガイド，またはシステムに付属の操作ガイドを参照してください。）



● **コマンド行**

文字がタイプされると，この行に表示されます。メニューを使わずに DOS コマンド（1-8ページ参照）を直接入力する場合に利用します。

注）各コマンドについては，「解説」中に例示されており，これを見ながらコマンドを起動できます。

● **カーソル**

該当するファンクション・キーの 1 つが四角く輝度が反転して表示されています。これはカーソルといい，選択する機能を DOS に示すためのものです。また，コマンド行にも下線タイプのカーソルがあり，文字の入力位置を示しています。

3.　機能を実行するには……。

各機能は，メイン・メニューからその機能を選択することで実行されます。また，メイン・メニューから機能を選択した後も，次のメニューが表示されますので，特別な知識がなくても作業を進めることができます。

メニューから機能を選択するには，次のいずれかの方法を使います。

1．ファンクション・キーによる選択

アイコンの下に示されたファンクション・キーを押すと，その機能が実行されます。

2．カーソルによる選択

カーソル移動キー，またはタブ・キー（[⇆]）を押すと，カーソルが次の機能のファンクション・キーの表示位置に移動します。選択したい機能にカーソルを合わせて，[実行]キーまたは[↵]キーを押すと，その機能が実行されます。

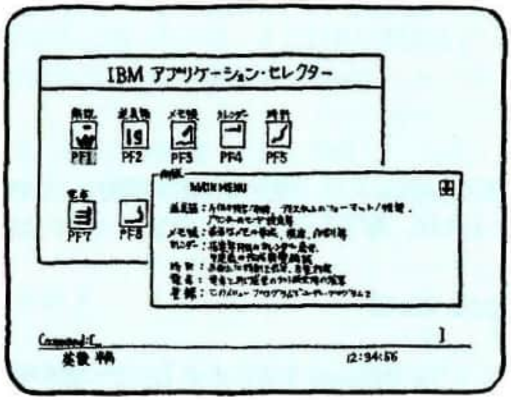
3．コマンドの直接入力

コマンドを直接入力することによって，その機能が実行されます。

注）「登録」機能で登録したプログラムは，それが選択された際には，登録時に指定したドライブのディレクトリーにある必要があります。

操作が分からないときには……。

操作が分からなくなったときのために，各メニューには解説が用意されています。たとえば，メイン・メニューにおいて，先述のいずれかの方法で「解説」を選択してください。ここで実行できる作業を説明した解説窓が現れます。



解説文は，一度に表示できずに続きが隠れている場合があります（解説窓右上隅に矢印が表示されていれば，その矢印の方向にまだ行があります）。この場合は，↑/↓キーで1行ずつ続きを見られます。また，前面キーを押しながら↑/↓キーを押すと1画面ずつ画面を進められ，Ctrlキーを押しながら↑/↓キーを押すと先頭と最後の画面を表示できます。

必要な情報が得られたら，終了キーまたはPF12キーを押してください。解説窓が消え，操作が続けられます。

操作を取り消したいときには……。

機能を選択した場合は，表示されるメニューまたはパネルにおいて，「終了」を選べば元の画面に戻ります。

文字をタイプした場合は，削除キーでカーソル位置の文字を，後退キーでカーソルの1つ前の文字を削除できます。また，取消キーを押せば，コマンド行全体の文字列を削除できます。

4. DOSコマンドについて。

メイン・メニュー下部にあるコマンド行には，DOSコマンドを直接入力できます。DOSコマンドとは，私たちがDOSに仕事を指示するために入力する命令のことです。ここで，DOSコマンドについて簡単に学びましょう。

キーワードとパラメーター

通常，DOSコマンドは「**キーワード**」部分と「**パラメーター**」部分から成ります。たとえば，複写を命じるCOPYコマンドは次のように指定します。

```
copy test1 test2
↑     ↑     ↑
|     |     2つ目のパラメーター（どこへ複写するのか）
|     1つ目のパラメーター（どのファイルを複写するのか）
キーワード
```

キーワードは，DOSが行う個々の仕事ごとに決まっている命令で，一般に，仕事の内容を表す簡単な英単語の形をとります。キーワードをタイプする際は半角文字しか使用できません。ただし，英字の大文字・小文字はどちらでも構いません（COPYもcopyもCoPyも同様に扱われます）。本書では，小文字に統一して説明しています。

パラメーターは，その仕事に必要な「その他の情報」です。たとえば，データの複写を命じる場合は「どのデータを複写するのか」と「どこへ複写するのか」という情報が必要です。この2つの指定をパラメーターとしてキーワードの後にタイプします。パラメーターは，半角文字も全角文字も使用できます。

キーワードとパラメーターの間，およびパラメーターとパラメーターとの間には，1つ以上の**区切り文字**を入れます。区切り文字には，スペース（ ），カンマ（,），セミコロン（;），等号（=），タブ（[Tab]キーでタイプされる文字，無表示）がありますが，半角文字に限られます。本書では，1つの半角スペースを区切り文字として使用することにします。

コマンドの実行

DOS プロンプトに続けて DOS コマンド（キーワードもパラメーターも）をタイプしたら，[↵] キーを押して DOS に伝えます。これにより，DOS はコマンドを受け取って仕事を開始します。

DOS に送ったコマンドに間違いがあると，DOS は次のようなメッセージを表示して，仕事を実行しません。

キーワードが間違っていた場合 ： コマンドまたはファイル名が無効です
コマンド全体の構文が間違っていた場合 ： 構文エラーです

内部コマンドと外部コマンド

DOS コマンドを入力すると，DOS ディスケットに入っているプログラムの内のどれかが動き，仕事が実行されます。DOS コマンドは，「**内部コマンド**」と「**外部コマンド**」という 2 つのグループに分けることができます。

内部コマンドのプログラムは，DOS を始動したときに DOS ディスケットからシステム・ユニットの記憶域に読み込まれ，電源を切るか DOS を再始動するまで，そのまま記憶域に残ります。したがって，内部コマンドは，たとえ DOS ディスケットがドライブに差し込まれていなくても使用することができます。一般に，使用頻度の高いコマンドが内部コマンドになっています。

外部コマンドのプログラムは，DOS の始動時にシステム・ユニットに読み込まれません。あまり使用頻度の高くないコマンドまで記憶域に読み込んでおくと，それだけ使用できる記憶域が少なくなるからです。したがって，外部コマンドを使用する際は，DOS ディスケットをドライブに差し込んでおく必要があります。

本書で学ぶ DOS コマンドの内，次に挙げるものが外部コマンドです。

COMP,DISKCOMP,DISKCOPY,FORMAT,MODE,PRINT

5. DOS を終了しましょう。

DOS を終了する場合，いきなりシステム・ユニットの電源を切らずに，次の手順に従ってください。

1 実行中の作業を終了し，メイン・メニューまたは後述の DOS プロンプトが表示されている画面に戻ってください。

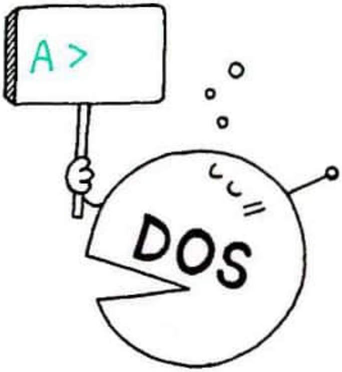
2 ディスケットをすべてドライブから取り出してください。

3 システム・ユニットの電源を切ってください。また，プリンターを使用していた場合は，その電源も切ってください。

以上で DOS が終了しました。

DOS プロンプト

メイン・メニューにおいて「終了」を選ぶと，"A>"や"C>"のような DOS プロンプトの表示される画面になります。DOS プロンプトが表示されているときは DOS が入力を待っている状態で，私たちは命令を入力して DOS に仕事を指示することができます。



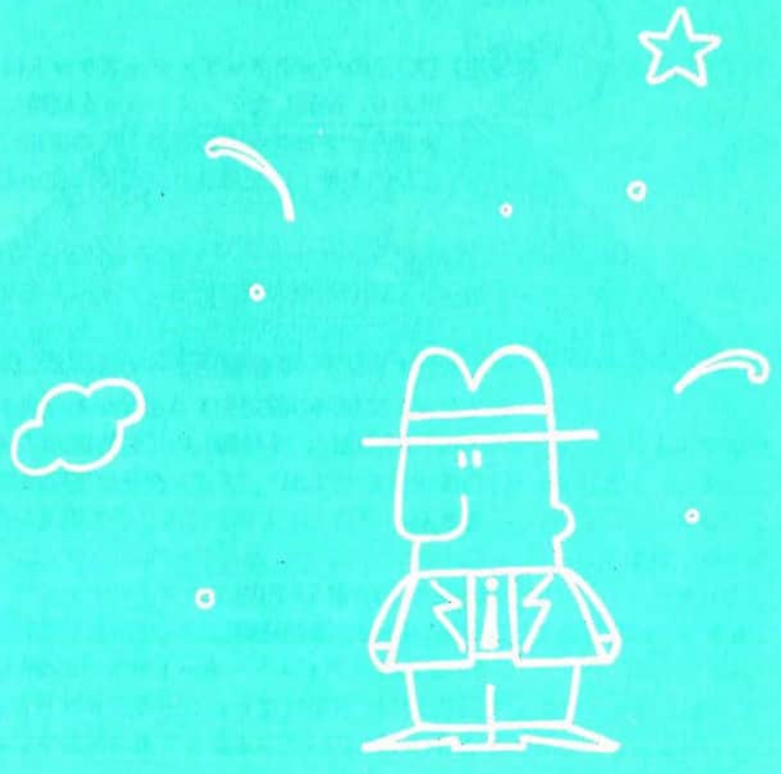
DOS プロンプトは，「**省略時ドライブ**」と区切り文字">"から構成されています。省略時ドライブとは，ドライブ名を省略して命令を与えたときに対象となるドライブのことで，DOS プロンプトが"A>"なら A ドライブ，"B"なら B ドライブ，"C>"ならハード・ディスクを指します。DOS 始動直後の省略時ドライブは，DOS ディスケットを差し込んだドライブ（ハード・ディスクから始動した場合はハード・ディスク）になります。

省略時ドライブは変更可能で，DOS プロンプトの後にドライブ名とコロン（:）をタイプして[↵]キーを押せば，そのドライブになります。

（空白ページ）

第2章　DOSを使用するための準備

この章では，ディスケットの内容をそのまま他のディスケットに複写する方法，および新しいディスケットをデータやプログラムの保管ができるように準備する方法について学びます。



1. ディスケットのバックアップとフォーマットについて。

バックアップ

日本語 DOS を購入後初めて操作する場合は，DOS を始動したら，他の作業を行う前に，DOS ディスケットのバックアップをとってください。バック・アップは，データの保全のためにディスケットの内容を他のディスケットに複写することで，複製された新しいディスケットを「バックアップ・ディスケット」と呼びます。

これ以降の「2.ディスケットを複写しましょう。」および「3.正しく複写できたか確認しましょう。」の節では，DOS ディスケットのバックアップを作成する手順を説明します。説明に従ってバックアップ・ディスケットを作ってください。なお，**すでにバックアップ・ディスケットを作成済みの場合，およびハード・ディスクに DOS を導入している場合は，作業は実行せずに，説明を読むだけにしてください。**

注）DOS のバックアップ・ディスケットはあくまで予備として作成するものであり，複製したディスケットを同時に複数の機械で使用することはできません。プログラムの複製とその使用に関しては，添付の「プログラムのご使用条件」に記載された条件に従ってください。

DOS ディスケットのバックアップをとる作業を始める前に，DOS ディスケットと同じ枚数の新しいディスケットを用意してください。

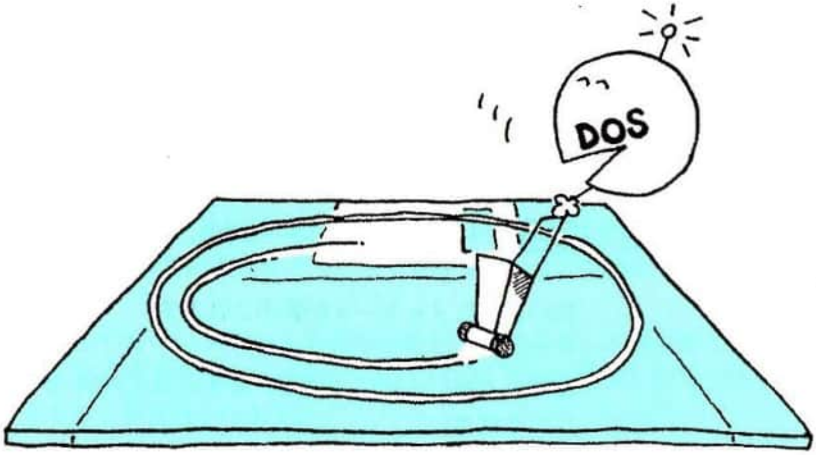
なお，プリンターの種類によっては，プリンターを使用するために DOS ディスケットに特別の設定をする必要があります。DOS のバックアップ・ディスケット作成後に，「付録」の「1.特定のプリンターを使用する場合の措置」の作業をしてください。**プリンターが下記の機種の場合は，この作業は必要ありません。**

5553-A01，5553-B01，
5557，5562，5563-B01，
5572-B01（フォント・カートリッジの無い場合），
5575-B01，F01（フォント・カートリッジの無い場合），
5577-B01，F01（フォント・カートリッジの無い場合）

また，メイン・メニューの「時計」機能を使えるようにするために，DOS のバックアップ・ディスケット作成後に，「付録」の「2.時計機能を使うために」の作業をしてください。

フォーマット

購入したばかりの空のディスケットは，そのままではデータやプログラムを保管するために使用できません。これを使用できるようにするには，**「フォーマット」**という作業が必要です。フォーマットは，何の印も付いていない新しいディスケット上に磁気で印を付けていく作業で，こうすることによってコンピューターにデータの保管場所が明確に示されます。



フォーマットは，必ずしも新しいディスケットばかりを対象に行うものではありません。すでに使用していたディスケットをフォーマットし直して，新たに別の用途に使用することもできます。ただし，**フォーマットすると，それまで入っていたデータはすべて破壊されるので注意してください。**なお，バックアップ・ディスケットを作る際には，複写先のディスケットをフォーマットしながら複写できるので，特に事前にフォーマットしておく必要はありません。

「3.フォーマットをしましょう。」の節では，新しいディスケットをフォーマットする手順を説明します。新しいディスケットを 1 枚用意してください。

2. ディスケットを複写しましょう。(DISKCOPY コマンド)

形式: DISKCOPY 複写元ドライブ 複写先ドライブ

上記の形式の DOS コマンドで複写できますが，ここでは，メニューを利用して複製を作る方法を学びましょう。

1 メイン・メニューから「道具箱」を選んでください。道具箱メニューが表示されます。

2 道具箱メニューから「複製」を選んでください。複製パネルが表示されます。

3 複製パネルでは，複製元ドライブと複製先ドライブを指定します。まず，複製元ドライブを"a"と指定してください。

4 複製先ドライブを"b"と指定してください。

5 [実行]キーまたは[↵]キーを押してください。

次のようなメッセージが表示されます。

複写元と同じタイプ (2DD，2HD，2HC のいずれか) のディスケットを準備してください

複写元ディスケットをドライブ A: に差し込んでください

複写先ディスケットをドライブ B: に差し込んでください

準備ができたらキーをどれか押してください...

注) 複写元と複写先のディスケット・タイプが同一であることを必ず確認してください。

6 複写元（DOSディスケット）と複写先（新しいディスケット）のディスケットをドライブAとBに差し込み，［↵］キーを押してください。

しばらくすると，次のメッセージが表示されます。

80 (40) トラック，9 (8，15，18) セクター/トラック，2 (1) 面で複写中です

フォーマットしながら複写中です

この状態でドライブAとBの使用中ランプが交互に付き，DOSディスケットの内容が新しいディスケットに複写されます。

7 複写が終了すると，次のメッセージが表示されます。

複写が終了しました

別のディスケットを複写しますか<Y/N>?

8 まだ複写していないDOSディスケットがある場合は，［Y］キーを押してください。その後，ドライブAとドライブBからディスケットを取り出して，6に戻って残りのDOSディスケットを複写してください。

全部のDOSディスケットの複写が終わった場合は，1枚目のDOSディスケットをもう一度ドライブAに入れ，［N］キーを押してください。次のメッセージが表示されます。

前画面に戻ります
どれかキーを押してください

9 指示に従ってどれかキーを押してください。画面は複製パネルに戻ります。複製パネルから「終了」を選んで道具箱メニューに戻り，さらにそこから「終了」を選んでメイン・メニューに戻ってください。

以上でDOSディスケットの複写は終了しました。

3. 正しく複写できたか確認しましょう。（DISKCOMP コマンド）

形式： DISKCOMP 第1ドライブ 第2ドライブ

ディスケットの複製をした場合は，複製元のディスケットと複製先のディスケットの内容が完全に一致するはずです。しかし，複製作業中に異常が発生して完全に複製できない可能性もあるので，念のために 2 つのディスケットの内容を比較しておきましょう。上記の形式の DOS コマンドで比較できますが，ここでは，メニューを利用して比較をする方法を学びましょう。

1 メイン・メニューから「道具箱」を選んでください。道具箱メニューが表示されます。

2 道具箱メニューから「比較」を選んでください。比較パネルが表示されます。

3 比較パネルでは，比較元ドライブと比較先ドライブを指定します。まず，比較元ドライブを"a"と指定してください。

4 比較先ドライブを"b"と指定してください。

5 [実行]キーまたは[↵]キーを押してください。

次のメッセージが表示されます。

第 1 のディスケットをドライブ A: に差し込んでください

第 2 のディスケットをドライブ B: に差し込んでください

準備ができたらキーをどれか押してください...

6 比較元（DOS ディスケット）と比較先（新しいディスケット）のディスケットをドライブ A と B に差し込み，[↵]キーを押してください。

しばらくすると，次のメッセージが表示されます。

80（40）トラック，9（18）セクター/トラック，2（1）面で比較中です

この状態でドライブ A と B の使用中ランプが交互につき，DOS ディスケットと新しいディスケットが比較されます。

7 比較が終了すると，次のメッセージが表示されます。

ディスケットの内容は一致しています

別のディスケットを比較しますか<Y/N>?

注） 比較中にエラー（2 つのディスケットの違い）が検出されると，その個所が表示されます。この場合，前節「1.ディスケットを複製しましょう。」の手順をやり直した後，もう一度ディスケットを比較してみてください。
さらにエラーが表示された場合は，使用した新しいディスケットに欠陥がある可能性があります。別の新しいディスケットを使ってください。

8 まだ比較していないディスケットの組みがある場合は，［Y］キーを押してください。その後，2 枚のディスケットをドライブから取り出して，3 に戻って次の原本と複製のディスケットを比較してください。
全部の DOS ディスケットの比較が終わった場合は，1 枚目の DOS ディスケットをもう一度ドライブ A に入れ，［N］キーを押してください。どれかキーを押すように求められます。

9 指示に従ってどれかキーを押してください。画面は比較パネルに戻ります。比較パネルから「終了」を選んで道具箱メニューに戻り，さらにそこから「終了」を選んでメイン・メニューに戻ってください。

以上でディスケットの比較は終了しました。バックアップ・ディスケットには，DOS ディスケット添付の補助ラベルを貼り，「プログラムのご使用条件」に従って，購入した DOS ディスケットと同一の著作権表示を付してください。**以後，バックアップ・ディスケットを DOS ディスケットとして使用します。元の DOS ディスケットは安全な場所に保管してください。**

4. フォーマットをしましょう。(FORMAT コマンド)

形式： FORMAT ドライブ指定子

上記の形式の DOS コマンドでフォーマットできますが，ここでは，メニューを利用してフォーマットする方法を学びましょう。

1 メイン・メニューから「道具箱」を選んでください。道具箱メニューが表示されます。

2 道具箱メニューから「フォーマット」を選んでください。フォーマットパネルが表示されます。

3 次のように入力してください（ハード・ディスクのシステムの場合は，かっこ内)。

b:/v　　　　　(a:/v)

注）"b:"または"a:"はフォーマットするディスケットが入ったドライブを指定します。"/v"はフォーマットしたディスケットに名前（ボリューム・ラベルと呼びます）を付けることを指定します。

次のメッセージが表示されます。

新しい 2DD (または 2HC か 2HD) ディスケットをドライブ B: (A:) に差し込み，キーをどれか押してください。

4 指示に従ってどれかキーを押してください。次のメッセージが表示されます。

80 シリンダー，2 面，9 (18) セクターでフォーマット中です

面： 1，シリンダー： 0

メッセージ中の数字は次々と変化し，フォーマットが終了すると次のメッセージに変わります。

フォーマットが終了しました

ディスクのボリューム・ラベルを入力してください
漢字<全角>-5 文字，英数字<半角>-11 文字，無名称-改行キー

5 ここでは，次のようにボリューム・ラベルを入力してください。

vol1

注）半角文字11字以内なら，どんな名前でも構いません。

次のメッセージが表示されます。

××××××バイト：全ディスク空間
××××××バイト：使用可能ディスク空間

別のディスケットをフォーマットしますか<Y/N>?

6 "N"を入力してください。次のメッセージが表示されます。

前画面に戻ります
どれかキーを押してください。

7 指示に従ってどれかキーを押してください。画面はフォーマットパネルに戻ります。フォーマットパネルから「終了」を選んで道具箱メニューに戻り，さらにそこから「終了」を選んでメイン・メニューに戻ってください。

以上でディスケットのフォーマットは終了しました。第 4 章の練習では，このディスケットを使用します。次章に進んでください。

（空白ページ）

第3章　ファイルについて

DOSの管理するデータやプログラムの単位を「ファイル」と呼びます。この章では，ファイルとファイルを扱ういくつかのコマンドの使い方について説明します。

1. ファイルとは……。

ディスケット，またはハード・ディスク上のデータやプログラムは，ファイルという単位にまとめられています。1つのプログラム，同種類のデータ群，一連の文章（テキスト）などが1つのファイルを構成します。

ファイルの名前

1枚のディスケットには，通常，複数のファイルが保管されます。これらのファイルは，それぞれ異なる名前を付けることで区別されます。DOSは，この名前を手がかりにして必要なファイルを探し，指示された作業を実行します。

ファイルの名前は，**ファイル名とエクステンション**（拡張子）とで構成されます。エクステンションはファイルの種別を示すために用い，省略することもできます。

COMMAND.COM

↑　↑

ファイル名　**エクステンション**

(8文字まで)　(.の後に3文字まで)

この例では，"COMMAND"がファイル名で".COM"がエクステンションです。

ファイル名の長さは1～8文字です。全角文字は2文字に数えます。半角文字と全角文字を混在させることもできます。ファイル名に使える文字は次のものです。

半角文字の英数字およびカタカナ　A~Z　0~9　ｱ~ﾝ

半角文字の特殊文字　$ & # @ ! % ( ) - { } ^ ~ ' _

すべての全角文字（漢字，ひらがな等）

上記以外の文字（半角文字のスペースやカンマ）は使用できません。また，半角文字の英字は大文字も小文字も使えますが，DOSはどちらも大文字として扱うため，同じディスケット上のファイル名として使い分けることはできません。たとえば，"COMMAND.COM"と"command.com"は同じファイル名です。

エクステンションは，半角文字のピリオド（.）と1～3文字から成ります。ファイル名とエクステンションの間にスペースを空けることはできません。

半角文字のピリオドに続く文字は，ファイル名に使える文字の中から指定します。全角文字を2文字分に数える点も同様です。

ファイル名が同じでも，エクステンションが異なっていれば，DOSは2つのファイルを区別することができます。

DOSにファイルを指示するには……。

DOSは複数のドライブ（ディスケット・ドライブやハード・ディスク）を管理しているので，ファイルを扱う作業を命じるためには，「どのドライブにあるどのファイルか」を指示しなければなりません。これには，ファイルの名前の前に**ドライブ指定子**を付けます。

例）

```
B:FILENAME.EXT
↑
```
ドライブ指定子

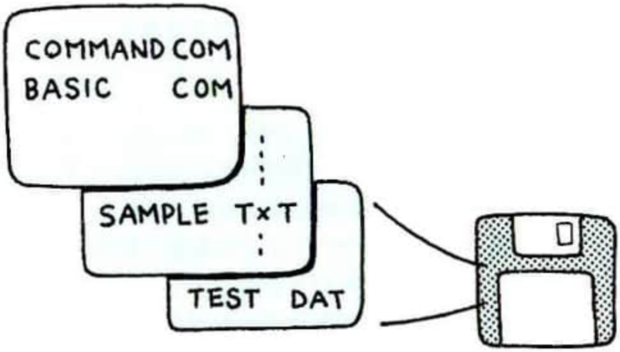
上の例の"B:"は，ファイルがドライブBにあることを示すドライブ指定子です。このように，ドライブ指定子とは，ドライブ名（半角の英字）の直後にスペースを空けずに":"（半角のコロン）を付けたものです。ドライブ指定子を省略すると，DOSは省略時ドライブからファイルを探します。

ドライブ指定子も，ファイル名と同様に，英字の大文字・小文字の区別がありません。つまり，"B:FILENAME.EXT"も"b:FILENAME.EXT"も同じドライブの同じファイルを示していることになります。

ドライブ指定子は，単独で（ファイル名に付けるのではなく）使用する場合もあります。省略時ドライブを変更するときにタイプした"A:"や"B:"などは，ドライブ指定子を単独で使ったものです。

2. ディスケットの内容を調べましょう。（DIR コマンド）

形式： DIR ドライブ指定子



DOS は，ディスケットやハード・ディスク上のファイルを管理するために，それぞれのディスケットやディスクに，「**ディレクトリー**」というファイル登録簿を作っています。ディレクトリーには，ファイル名，そのファイルを作った日付け，ファイルを保管してある位置などの情報が入っています。

1 枚目の DOS ディスケット（またはハード・ディスク）のディレクトリーを表示してみましょう。上記の形式の DOS コマンドで実行できますが，ここでは，メニューを利用する方法を学びましょう。

1 メイン・メニューから「道具箱」を選んでください。道具箱メニューが表示されます。

2 道具箱メニューから「ファイル一覧」を選んでください。

画面上に次々とファイルの情報（ファイル名，ファイルの大きさ，作成日付）が表示されます。画面が一杯になると情報の表示が止まり，次のメッセージを表示します。

準備ができたらキーをどれか押してください

3 ここで1画面分の情報を印刷してみましょう。プリンターの電源が入っていることを確認して，[ページ印刷]キーを押してください。[ページ印刷]キーを押すと，画面上の全データが印刷されます。

4 印刷が終わったら，何らかの**データ・キー**を押してください（[ページ印刷]キーはデータ・キーではないので，[ページ印刷]キーで次の画面を表示させることはできません)。DOSは次の1画面分の情報を表示します。情報の表示が終わるまで，3と4を繰り返してください。

注）印刷中にデータ・キーを押しても，次の画面は表示されません。

5 どれかキーを押して元の道具箱メニューに戻り，そこから「終了」を選んでメイン・メニューに戻ってください。

この「ファイル一覧」機能は，次のようなDIRコマンドに該当します。

```
dir /p
```

"/p"パラメーターは，1画面分ずつ情報を区切って表示させるためのパラメーターです。

3. ファイルの内容を見てみましょう。（TYPE コマンド）

形式： TYPE ファイル名

ファイルの実際の内容を調べてみましょう。

次の手順に従って，1枚目のDOSディスケット（またはハード・ディスク）上の"CONFIG.SYS"というファイルの内容を見ることにしましょう。

1 メイン・メニューまたはDOSプロンプト（ディスケット・システムの場合は"A>"，ハード・ディスク・システムの場合は"C>"）が表示されている画面で，次のコマンドを入力してください。

```
type config.sys
```

次のように"CONFIG.SYS"ファイルの内容が表示されます。

```
BUFFER=10
DEVICE=$PRN24.SYS
      ・
      ・
```

注）"CONFIG.SYS"は，システムの構成をDOSに指示するファイルです。ファイルの内容は，DOSのバージョンやシステム構成により，多少違う場合があります。また，TYPEコマンドの機能はファイル内容の表示だけですから，表示された内容を修正することはできません。

2 ファイルの内容がすべて表示されると，DOSプロンプト画面から始めた場合は，DOSプロンプトが表示されます。メイン・メニューから始めた場合は，どれかキーを押すように求められますので，指示に従ってどれかキーを押してメイン・メニューに戻ってください。

今度は，別のファイル"COMMAND.COM"の内容を見てみましょう。 1 で入力するコマンドを次のように変えて，先程の手順を繰り返してください。

```
type command.com
```

注）今度は画面上に無意味な文字が次々と表示されますが，心配はいりません。内容の表示が終わればDOSプロンプトの状態に戻りますから，しばらく待っていてください。

"CONFIG.SYS"ファイルの内容は，「式のようなものの集まりだ」ということが一見して分かります。しかし，"COMMAND.COM"ファイルの内容はまったく意味の無いもののように見えます。このことについて，少し説明します。

テキスト・ファイルと2進ファイル

ファイルには，**テキスト・ファイル**と**2進ファイル**の2種類があります。

テキスト・ファイルは，人間が読める文字形式のファイルです。これは，人間が書けるファイルでもあり，メイン・メニューのメモ帳機能などを使って作成することができます。テキスト・ファイルはASCII（アスキー）ファイルと呼ばれることもあります。私たちが作成するFORTRANやPascalやCOBOLのプログラムのファイルや文章のファイルなどがテキスト・ファイルです。

2進ファイルは，2進数（文字としての意味を持たない）で書かれた人間が読めないファイルです。ハードウェアは0と1しか判別できません。したがって，ハードウェアに与える情報は，0と1の組み合わせ（2進数）で表す必要があります。2進ファイルは，ハードウェアに直接指示を与えるためのファイルで，プログラムが作成します。FORTRANやPascalやCOBOLのプログラムをコンパイルして（実行できる形式に翻訳して）作成されたファイルなどが2進ファイルです。

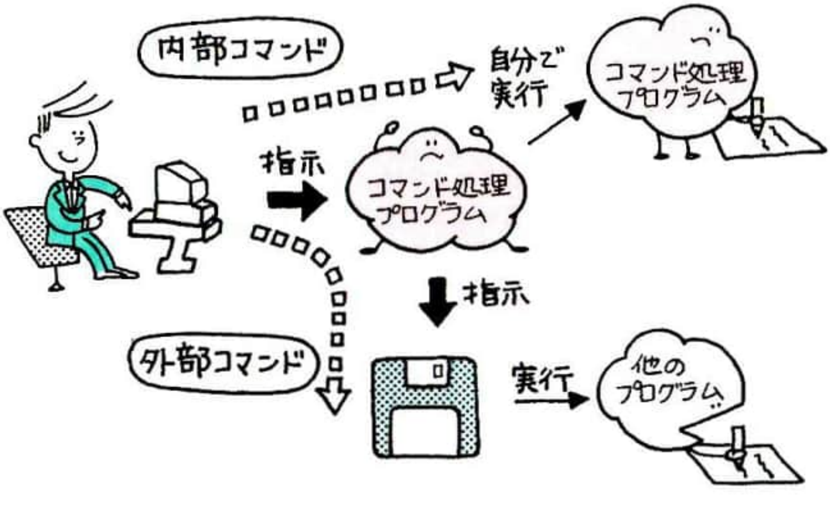
TYPEコマンドで表示した"CONFIG.SYS"ファイルはテキスト・ファイル，"COMMAND.COM"は2進ファイルだったのです。

4. 各ファイルの役割

DOSディスケット上のファイルはどんな役割をもつのか，簡単に説明しましょう。

エクステンションが".COM"または".EXE"のファイルはコマンドやプログラムのファイルで，2進ファイルです。これらは，ファイル名（エクステンション部分を除く）を入力すると実行できます。実行時に，そのファイルの入ったディスケットをドライブに差し込んでおく必要があります。

".COM"のファイルの内，少し毛色の変わったものが"COMMAND.COM"です。"COMMAND.COM"も「コマンド処理プログラム」と呼ばれるプログラムのファイルですが，これを実行するためにコマンドを入力する必要はありません。このプログラムはDOSの始動時に記憶域に読み込まれ，自動的に動き始めます。DOSプロンプトを表示したり，入力されたコマンドを解釈したり，内部コマンドを自分で実行したり，外部コマンドやその他のプログラムを呼び出して動かしたりする仕事を，このプログラムが行っています。



DOSを始動するとメニュー形式で仕事ができますが，このためのプログラムは，".EXE"ファイルです。たとえば，メイン・メニューを表示したり，新たな機能を登録したりするのは，"JMENU.EXE"というファイルです。".EXE"ファイルはファイル名を入力すると実行できるので，メイン・メニューから終了を選んでプロンプト画面になっても，"JMENU"と入力すれば再びメイン・メニューを表示できます。同様に，メニューにある各機能も，ファイル名を入力することで単独で利用できます。各機能とそれに対応するファイルは，次のとおりです。

- 道具箱：　JTOOL.EXE
- メモ帳：　JNOTE.EXE
- カレンダー：　JCALEN.EXE
- 時計：　JCLOCK.EXE
- 電卓：　JCALC.EXE
- 登録：　JREGS.EXE

エクステンションが".FNT"のファイルは文字に関する情報（全角文字や半角文字の形，漢字の読みなど）を含んだデータ・ファイルで，2進ファイルです。

"CONFIG.SYS"は，システムの構成に関する情報をDOSに与えるためのファイルです。たとえば，「特別なプリンターを使用するので，それを操作するためには特別なプログラムを使う必要がある」という意味の情報をこのファイルに入れておくと，DOSは指定されたプログラムを使ってプリンターを操作してくれます。このファイルは，テキスト・ファイルです。

"AUTOEXEC.BAT"は，DOSが始動したときに最初に実行されるファイルで，テキスト・ファイルです。DOSを始動するとメイン・メニューが表示されるのは，ここに"JMENU"が指定されているためです。

この他にも，DOSディスケット上には各種のファイルがありますが，どれもDOSが使うデータ・ファイルです。詳しい内容については参照編を参照してください。

（空白ページ）

第4章　ファイルの作成と編集

メイン・メニューのメモ帳の機能を使って、ファイルを作成、編集する方法を学びましょう。

1. 文字の入力方法

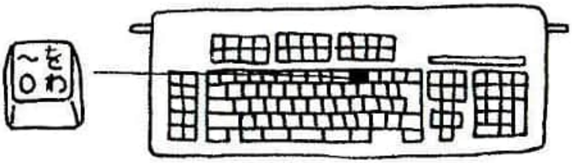
文字の入力については，"EXPLORING **パーソナルシステム/55**"などですでに練習していることと思いますので，ここでは，簡単な復習だけにしておきましょう。

IBM パーソナルシステム/55 は，次の文字を扱うことができます。

英字，数字，特殊記号，ひらがな，カタカナ，漢字

このうち，カタカナと漢字以外の文字は，その文字が上部に書かれたキーを押すと，タイプすることができます。1 つのキーには，最大 4 つの文字が書かれていますが，現在そのキーを押すとどの文字がタイプされるのかは，画面の下部に表示されています。これを「**入力シフト**」といいます。

たとえば次のキーの場合，



入力シフトに従って，次の文字がタイプされます。

画面下部	**入力シフト**	**タイプされる文字**
英数	英字	0
英数 ↑	英記号	～
かな	ひらがな	わ
かな ↑	かな記号	を
カナ	カタカナ	ワ
カナ ↑	カナ記号	ヲ

カタカナの入力シフトでは，キー上部のひらがなに対応するカタカナがタイプされます。

また，キー上部に英字が書かれているキーは，英字のシフトで小文字，英記号のシフトで大文字がタイプされます。しかし，大文字を主体にタイプする場合は，次のようにCAPSのシフトにしてキー操作を簡単にすることができます。

CAPS　　半角

英字，数字，カタカナ，特殊記号には，半角文字と全角文字の 2 種類があります。現在どちらの文字がタイプされるかは，先程の表示（英字，かな，カナなど）に続けて，次のように表示されます。

英字　　半角
カナ　↑　全角

ひらがなやカタカナをタイプする場合，キー上部の表示文字を直接タイプする方法（これを**かな入力**と呼びます）の他に，ローマ字でタイプするとひらがなやカタカナで表示される方法（これを**ローマ字入力**と呼びます）があります。この場合は，あらかじめローマ字入力モードにしなければなりません。ローマ字入力モードでは，次のように，全角または半角の後に R が表示されます。

かな　　全角　R

次に，具体的に各文字をタイプする操作を説明します。

英字（大文字・小文字）をタイプにするには

1 [英数]キーを押してください。入力シフトが英字になります。

2 **大文字を主体にタイプするなら……**

[前面キー]を押しながら[英数]キーを押してください。入力シフトがCAPSになります。

3 **半角文字をタイプするなら……**

[半角]キーを押してください。入力シフトが半角になります。

全角文字をタイプするなら……

[全角]キーを押してください。入力シフトが全角になります。

4 **英字の入力シフトで小文字をタイプするなら……**

そのまま，該当する英字が書かれたキーを押してください。

英字の入力シフトで大文字をタイプするなら……

[⇧]キーを押しながら，該当する英字のキーを押してください。

CAPSの入力シフトで大文字をタイプするなら……

そのまま，該当する英字が書かれたキーを押してください。

CAPSの入力シフトで小文字をタイプするなら……

[⇧]キーを押しながら，該当する英字のキーを押してください。

ひらがな・かな記号をタイプするには

1 ［ひらがな］キーを押してください。入力シフトがかなになります。

2 **ローマ字入力でタイプするなら……**

［前面キー］を押しながら［ひらがな］キーを押してください。R が表示されます。

3 **かな入力でひらがなをタイプするなら……**

そのまま，該当するひらがなが書かれたキーを押してください。

かな入力でかな記号をタイプするなら……

［⇧］キーを押しながら，該当するかな記号が書かれたキーを押してください。

ローマ字入力でひらがなをタイプするなら……

ひらがなをローマ字で表して，1 つまたは複数の英字のキーを順に押してください（たとえば，「あ」なら［A］キー，「し」なら［S］キーの後で［I］キーを押します）。ローマ字での表し方は，参照編の付録「ローマ字かな対応表」を参照してください。

ローマ字入力でかな記号をタイプするなら……

［⇧］キーを押しながら，該当するかな記号が書かれたキーを押してください。ただし，「ぁ」や「を」のように，かな記号の位置に書かれたひらがなは，ローマ字入力でひらがなをタイプする方法に従ってタイプしてください。

カタカナ・カナ記号をタイプするには

1 [カタカナ]キーを押してください。入力シフトがカナになります。

2 **半角文字をタイプするなら……**

[半角]キーを押してください。入力シフトが半角になります。

全角文字をタイプするなら……

[全角]キーを押してください。入力シフトが全角になります。

3 **ローマ字入力でタイプするなら……**

[前面キー]を押しながら[ひらがな]キーを押してください。Rが表示されます。

4 **かな入力でカタカナをタイプするなら……**

そのまま，該当するひらがなが書かれたキーを押してください。

かな入力でカナ記号をタイプするなら……

[⇧]キーを押しながら，該当するかな記号のキーを押してください。

ローマ字入力でカタカナをタイプするなら……

ローマ字でひらがなをタイプする方法と同じです。

ローマ字入力でカナ記号をタイプするなら……

ローマ字でかな記号をタイプする方法と同じです。

漢字をタイプするには

漢字をタイプする方法には，熟語辞書を使わない単漢字変換，熟語辞書を使う単漢字変換，文節変換および連文節変換の 4 種類があります。熟語辞書を使わない単漢字変換は DOS ディスケットだけで可能ですが，あとの 3 つの変換には別売の辞書が必要です。

ここでは単漢字変換の方法を説明します。（文節変換の方法については，日本語文節変換プログラム　ユーザーズ・ガイド，N:SC18-2119，連文節変換の方法については，日本語連文節変換プログラム ユーザーズ・ガイド，N:SC18-2207 を参照してください。）

1　[漢字]キーを押して，漢字モードにしてください。画面下部に，次のように表示されます。

かな　半角　==>

2　1 文字分の漢字の読みをひらがなでタイプしてください。このとき，かな入力とローマ字入力のいずれも可能です。

3　[変換]キーを押してください。画面下部にタイプした読みに対する漢字候補が表示されます。

4　漢字候補の中からタイプしたい漢字を探してください。表示された候補の中に無ければ，[変換]キーを押してください。別の候補が表示されます。タイプしたい漢字を含んだ候補が表示されるまで，これを繰り返してください。

5　タイプしたい漢字に対応する番号を選んで，その番号をテン・キー（キーボード右側の数字キー）を使ってタイプしてください。これで漢字がタイプされます。

6　引き続き漢字をタイプする場合は，2 から操作してください。また，漢字のタイプを終わる場合は，[漢字]キーを押してください。

読みの無い漢字をタイプする方法については，参照編を参照してください。

2. ファイルを作りましょう。

ファイルを作成する方法はいろいろありますが，メイン・メニューの「**メモ帳**」の機能を使うのが便利です。メモ帳を使って次のようなテキスト・ファイルを作成してみましょう。

ひらがなのにゅうりょく
カタカナノニュウリョク
漢字の入力

作成したテキスト・ファイルを保存するために，第2章で**フォーマットした新しいディスケット1枚**を用意してください。以後，このディスケットを「**データ・ディスケット**」と呼びます。

1. メイン・メニューから「**メモ帳**」を選んでください。メモ帳メニューが表示されます。
2. カーソルはすでに文字の入力域にありますので，そのまま入力を始められます。1行目の「ひらがなのにゅうりょく」をタイプしてください。
3. [↵]キーを押してください。カーソルが次の行の先頭に移動して，入力が続けられます。2行目の「カタカナノニュウリョク」をタイプしてください。
4. [↵]キーを押した後，3行目の「漢字の入力」をタイプしてください。

これで入力は終わりですが，これらの文字列は，まだディスケットに書き込まれていません。**メモ帳は，システム・ユニットの記憶域を一時的に使用して処理を行っているので，このままでは電源を切ったときに編集内容が失われてしまいます。**そこで，この内容をディスケットに書き込みましょう。記憶域の内容をディスケットに書き込むことを「**保存する**」といいます。

5　データ・ディスケットを，ドライブ B（ハード・ディスクのシステムの場合はドライブ A）に差し込んでください。

6　メモ帳メニューから「**保存**」を選んでください。ファイル名の入力が求められます。

7　次のようにファイル名をタイプし（ハード・ディスクのシステムの場合はかっこ内），実行キーまたは↵キーを押してください。

b:text　　　　　　（a:text）

注） ファイル名"**text**"の前にドライブ指定子"**b:**"または"**a:**"が付いていますが，これを付けないと，DOS は"**text**"を省略時ドライブのディスケットに作成するファイルだと判断してしまいます。

8　画面は元のタイプした文字列が表示された画面に戻っています。ファイルはこれで保存されているので，終了できます。メニューから「**終了**」を選んでください。「**終了しても良いですか？**」と，確認が求められます。

9　カーソル移動キーで"YES"の輝度を反転させ，実行キーまたは↵キーを押してください。メイン・メニューに戻ります。

ファイルの作成と保存はこれで終わりです。作成した"TEXT"が確かに保存されていることを確認してみましょう。

10　次のコマンドを入力してください（ハード・ディスクのシステムの場合はかっこ内）。

dir b:　　　　　　（dir a:）

データ・ディスケットの内容の中に，"TEXT.NW"が確認できます。

注） エクステンション"NW"は，システムが自動的に付けたものです。メモ帳では，エクステンションが"NW"のファイルだけを扱えます。

3. ファイルを修正しましょう。

保存した"TEXT.NW"ファイルを呼び出して，次のような修正をしましょう。

ひらがなのにゅうりょく		**カタカナノタダシイニュウリョク**
カタカナノニュウリョク	→	**EIJI NO NYUURYOKU**
漢字の入力		**漢字を入力しましょう**

1 メイン・メニューから「**メモ帳**」を選んでください。メモ帳メニューが表示されます。

2 メモ帳メニューから「**読込**」を選んでください。読み込みファイルの指定を行う窓が表示されます。

窓内の上部の行は，読み込むファイル名を入力する行です。ここには，現在，"A:¥*.NW"（ハード・ディスク・システムの場合は"C:¥*.NW"）と表示されています。これは，「読込」が指示された場合，まず，省略時ドライブの中の（さらに詳しく言えば，「ルート・ディレクトリー」と呼ばれ"¥"で表される基本の登録簿の中の）エクステンションが".NW"のファイルが探されるためです。"TEXT.NW"は，データ・ディスケットに保存したので，他に".NW"のエクステンションを持つファイルがなければ，「**指定されたドライブのディスレクトリーにはファイルが存在しません**」と表示されます。

注） アスタリスク"*"をファイル名の指定の中で使うと，指定された部分の数文字分を不定にします。アスタリスクを使うと，DOSは，"*"の部分が何でも，それ以外の部分が合致しているファイルは，すべて作業の対象とみなします（TYPEなど"*"が使えないコマンドもあります）。

窓内の下部には該当するファイルのリストが表示されます。

3 データ・ディスケットが，ドライブB（ハード・ディスクのシステムの場合はドライブA）に差し込まれていることを確認してください。

4 入力行の表示を"B:¥*.NW"（ハード・ディスクのシステムの場合は"A:¥*.NW"）に変更した後，[実行]キーまたは[↵]キーを押してください。

5 データ・ディスケット内の"*.NW"のリストが表示されます。

6 "TEXT.NW"の輝度が反転している状態で（他のファイル名の輝度が反転している場合はカーソル移動キーで"TEXT.NW"を反転させて）[実行] キーまたは[↵]キーを押してください。保存されていた内容が表示されます。

これで文書の読み込みができました。続いて修正を加えましょう。

7 カーソルを「ニュウリョク」の「ニ」に合わせた後，[挿入]キーを押してください。カーソルが四角い形に変わります。これは，タイプする文字がカーソル位置に挿入される状態です。「タダシイ」とタイプしてください。

8 カーソルを「漢字の」の「の」に合わせた後，もう一度[挿入]キーを押してください。カーソルが元の形に変わります。これは，タイプする文字がカーソル位置に重ね書きされる状態です。「を入力します」とタイプしてください。

注）[挿入]キーを押すたびに文字の挿入と重ね書きの状態が切り替わります。

9 カーソルを 3 行目に置いたまま，[前面キー] を押しながら[I]キーを押してください。カーソルのある行の前に空白行が 1 行追加されます。"EIJI NO NYUURYOKU"と入力してください。

10 カーソルを 1 行目に移動した後，[前面キー] を押しながら[D]キーを押してください。カーソルの置かれた行が削除されます。

これでファイルの修正は終わりです。修正した内容は，前節の手順で再び保存できます。なお，修正後保存する際にファイル名を違う名前にすると，別ファイルとして保存されます。

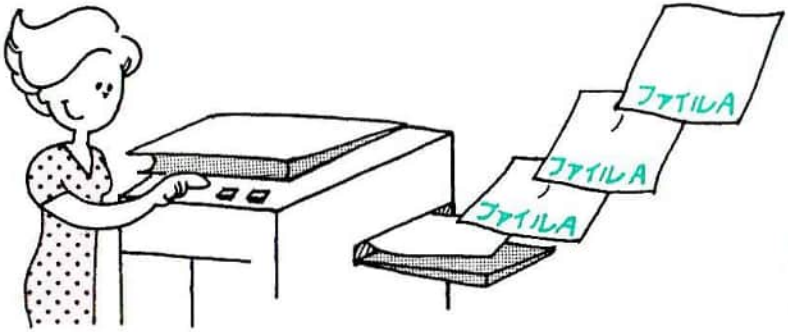
（空白ページ）

第5章　基本的なDOSコマンド

DOSの基本的なコマンドについて，練習しましょう。前章で作成したテキスト・ファイルを使用しますから，このデータ・ディスケットを用意してください。
また，DOSディスケットは，練習中に間違って内容を壊すことがないように，書き込み禁止にしておいてください。

1. ファイルを複写しましょう。（COPY コマンド）

形式： COPY　複写元ファイル名　複写先ファイル名



DISKCOPY コマンドが複写先のディスケットを複写元とまったく同じにするのに対して，COPY コマンドは，複写先ディスケット上の空いている場所に指定したファイルを複写します。空いている場所に複写するので，複写先ディスケットに入っていた元もとのデータは，複写後もそのまま残ります。また COPY コマンドは，ファイルの複写先を，複写元と同じディスケットにすることもできます。

データ・ディスケットの"TEXT.NW"ファイルを，同じデータ・ディスケットに，ファイル名を"TEXT.CPY"に変えて複写してみましょう。上記の形式の DOS コマンドで複写できますが，ここでは，メニューを利用して複写する方法を学びましょう。

1 メイン・メニューから「**道具箱**」を選んでください。道具箱メニューが表示されます。

2 道具箱メニューから「**複写**」を選んでください。複写パネルが表示されます。

3 複写パネルの窓では，最初に複写元のファイルを指定します。現在窓内には，省略時ドライブのファイル・リストが表示されていますが，"TEXT.NW"はこの中にはありません。データ・ディスケットをドライブ B（ハード・ディスクのシステムの場合はドライブ A）に差し込んでください。

4 [ESC]キーを押してください。カーソルが上部の入力行に移動します。

5 次のようにタイプして（ハード・ディスクのシステムの場合はかっこ内），[実行]キーまたは[↵]キーを押してください。

```
b:text.nw          ( a:text.nw )
```

複写先ファイル名を求める窓が表示されます。

6 次のように複写先をタイプして（ハード・ディスクのシステムの場合はかっこ内），[実行]キーまたは[↵]キーを押してください。複写が始まります。

```
b:text.cpy          ( a:text.cpy )
```

複写が終わると，どれかキーを押すよう求められます。

7 指示に従ってどれかキーを押してください。画面は複写パネルに戻ります。複写パネルから「終了」を選んで道具箱メニューに戻り，さらにそこから「終了」を選んでメイン・メニューに戻ってください。

ファイルの複写はこれで終わりです。複写した"TEXT.NW"がデータ・ディスケットにあることを確認しましょう。

8 次のコマンドを入力してください（ハード・ディスクのシステムの場合はかっこ内）。

```
dir b:          ( dir a: )
```

データ・ディスケットの内容の中に，"TEXT.CPY"が確認できます。

2. ファイルの内容を比較しましょう。（COMP コマンド）

形式： COMP 第1ファイル名 第2ファイル名

DISKCOMP コマンドがディスケットの内容全体を比較したのに対して，COMP コマンドは，2 つのファイルの内容を比較します。

COMP コマンドは，次のような場合に使用します。

- 同じであるべき 2 つのプログラムやデータの一方だけに修正が加えられていないか調べる
- COPY コマンドによるファイルの複写が正しく行われたか確認する

前節で複写したデータ・ディスケット上の"TEXT.CPY"ファイルを，元のファイル"TEXT.NW"と比較することにしましょう。

1 データ・ディスケットをドライブ B（ハード・ディスクのシステムの場合はドライブ A）に差し込んでください。

2 メイン・メニューまたはDOSプロンプトが表示されている画面で，次のコマンドを入力してください（ハード・ディスクのシステムの場合はかっこ内)。

```
comp b:text.nw b:text.cpy    ( comp a:text.nw a:text.cpy )
```

比較が完了すると，次のメッセージが表示されます。

```
ファイルの内容は一致しています

別のファイルを比較しますか<Y/N>?
```

注） ファイルの内容に違いがあった場合は，違いが検出されるたびに次のメッセージが表示されます。

```
オフセット　××××で比較エラーが起こりました
第一ファイル＝××
第二ファイル＝××
```

この場合は，前節「1.ファイルを複写しましょう。」の手順をやり直した後，もう一度ファイルを比較してみてください。さらにエラーが表示された場合は，ディスケットに欠陥がある可能性があります。別のディスケットを使用してください。

3 [N]キーを押してください。メイン・メニューまたはDOSプロンプトの画面に戻ります。

3. ファイルを削除しましょう。(DEL コマンドと ERASE コマンド)

形式: DEL ファイル名 または ERASE ファイル名

不要なファイルを残しておくと，ディスケットやディスクの使用可能な領域が減り，ファイルを探す効率も悪くなります。このような場合は，DEL コマンドや ERASE コマンドで不要になったファイルを削除してください。なお，DEL コマンドと ERASE コマンドは，全く同じ機能をもっています。

データ・ディスケット上の"TEXT.CPY"ファイルを削除してみましょう。上記の形式の DOS コマンドで削除できますが，ここでは，メニューを利用してファイルを削除する方法を学びましょう。

1 メイン・メニューから「**道具箱**」を選んでください。道具箱メニューが表示されます。

2 道具箱メニューから「**削除**」を選んでください。削除パネルが表示されます。

3 削除パネルの窓では，削除するファイルの指定をします。現在窓内には，省略時ドライブのファイル・リストが表示されていますが，"TEXT.CPY"はこの中にはありません。データ・ディスケットをドライブ B（ハード・ディスクのシステムの場合はドライブ A）に差し込んでください。

4 ESCキーを押してください。カーソルが上部の入力行に移動します。

5 次のように削除するファイル名を入力してください(ハード・ディスクのシステムの場合はかっこ内)。

```
b:text.cpy              ( a:text.cpy )
```

削除の確認を求める窓が表示されます。

6 カーソル移動キーで"YES"の輝度を反転させ，実行キーまたは↵キーを押してください。ファイルの削除が始まります。削除が終わると，どれかキーを押すよう求められます。

7 指示に従ってどれかキーを押してください。画面は削除パネルに戻ります。削除パネルから「**終了**」を選んで道具箱メニューに戻り，さらにそこから「終了」を選んでメイン・メニューに戻ってください。

ファイルの削除はこれで終わりです。削除した"TEXT.CPY"がデータ・ディスケットから消えていることを確認しましょう。

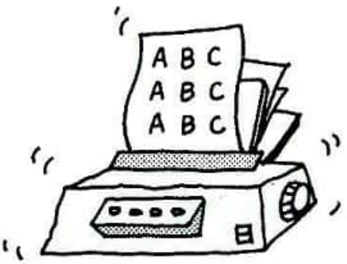
8 次のコマンドを入力してください(ハード・ディスクのシステムの場合はかっこ内)。

```
dir b:              ( dir a: )
```

データ・ディスケットの内容の中に"TEXT.CPY"はありません。

4. ファイルの内容を印刷しましょう。（PRINT コマンド）

形式： PRINT ファイル名



PRINT コマンドは，テキスト・ファイルの内容をプリンターで印刷します。なお，印刷の方法にはこの他に，メモ帳メニューから「**印刷**」を選ぶ方法などもあります。

注）メモ帳メニューの「印刷」で印刷できるファイルは，エクステンションが".NW"のファイルに限られます。

ここでは，PRINT コマンドで"TEXT.NW"ファイルの内容を印刷してみましょう。

注）"PRINT.COM"が他のドライブにある場合は，「付録」の「4.他のドライブにあるプログラムを実行するには……。」を参照してください。

1 データ・ディスケットをドライブ B（ハード・ディスクのシステムの場合は A）に差し込んでください。

2 プリンターの電源が入っていること，印刷可になっていること，および用紙がセットされていることを確認してください。

③ メイン・メニューまたはDOSプロンプト（ディスケット・ドライブのシステムの場合は"A>"，ハード・ディスクのシステムの場合は"C>"）が表示されている画面で，次のコマンドを入力してください。

```
print b:text.nw          ( print a:text.nw )
```

次のメッセージが表示されます。

```
プリンター装置名を入力してください[PRN]
```

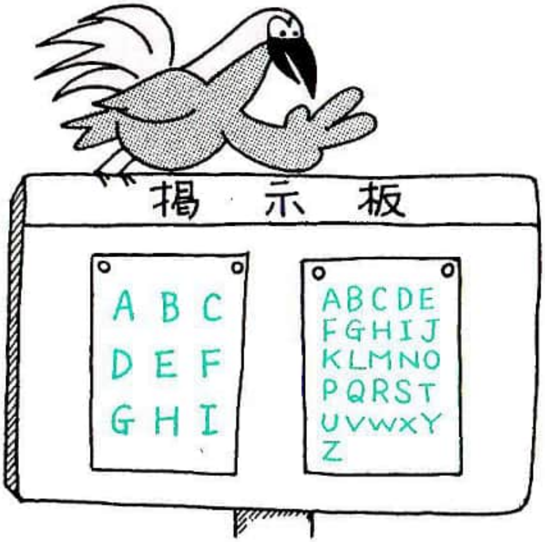
注）"PRN"はプリンターを示す装置名です。その他の装置を示す装置名を指定することもできます。装置名については，参照編を参照してください。

④ そのまま[↵]キーを押してください。次のメッセージ（ハード・ディスクのシステムの場合はかっこ内）が表示され，印刷が始まります。

```
B:TEXT.NW を現在印刷中です      ( A:TEXT.NW を現在印刷中です )
```

5. 1行の文字数や行間は変更できます。（MODE コマンド）

形式： MODE　LPT1：文字数,行数



印刷を命じると，DOS は標準の印刷様式を使ってファイルの内容を印刷します。標準以外の様式を使いたい場合（たとえば，文字の間隔を詰めたり，行の間隔を増やしたりする場合），MODE コマンドを使うと印刷様式を変えることができます。

前節で印刷した"TEXT.NW"ファイルの内容を，印刷様式を変えてもう一度印刷してみましょう。上記の DOS コマンドで変更できますが，ここでは，メニューを利用して変更する方法を学ましょう。

1　メイン・メニューから「**道具箱**」を選んでください。道具箱メニューが表示されます。

2　道具箱メニューから「**制御**」を選んでください。制御パネルが表示されます。

3 制御パネルから「**3. 印刷装置**」を選んでください。印刷装置の仕様を設定する窓が表示されます。

4 「**文字数：** 158」（標準は 132），「**行数：** 4」（標準は 6）を選択してください。値を選択するには，カーソル移動キーで設定する値の輝度を反転し，[スペース]キーを押します。

注） 文字数は1行あたりの文字数，行数は縦1インチあたりの行数です。

5 [実行] キーまたは [↵] キーを押してください。次のメッセージが表示されて，印刷様式が変わります。

LPT1： **最大印刷文字数が158文字/行(6CPI)に設定されました**

\- **縦方向改行間隔が4行/インチに設定されました**

・

・

6 キーをどれか押して元の画面に戻り，「**終了**」を何度か選んでメイン・メニューに戻ってください。

印刷様式の変更はこれで終わりです。もう一度"TEXT.NW"を印刷して，今回様式を変えて印刷した"TEXT"ファイルと比較してみましょう。

7 前節の手順に従って，PRINT コマンドで"TEXT.NW"ファイルを印刷してください。

前回標準の様式で印刷した"TEXT.NW"ファイルよりも，今回の方が文字間隔が詰まり，行間隔が広がったことが確認できます。

8 印刷様式を元に戻しておきましょう。1 からの手順をもう一度実行し，「**文字数：** 132」，「**行数：** 6」に設定値を戻してください。

6. ファイル名を変更しましょう。（RENAME コマンド）

形式： RENAME　現ファイル名　新ファイル名

すでに存在するファイルに対して，ファイルの内容を変えずにファイル名だけを変える場合は RENAME コマンドを使用します。

ファイル名の変更は，次のような場合に行います。

- メモ帳機能で作成したファイルのエクステンション".NW"を変更する。
- ファイルを整理するためにファイル名を変える

データ・ディスケットの"TEXT.NW"の名前を，「**テキスト**」に変えてみましょう。

1　データ・ディスケットをドライブ B（ハード・ディスクのシステムの場合はドライブ A）に差し込んでください。

2 メイン・メニューまたはDOSプロンプトが表示されている画面で，次のコマンドを入力してください（ハード・ディスクのシステムの場合はかっこ内）。

rename b:text.nw テキスト (rename a:text.nw テキスト)

注）"text.nw"は元のファイル名，「**テキスト**」は変更後のファイル名です。

ファイル名の変更が終了すると，どれかキーを押すよう求められます。

3 指示に従ってどれかキーを押してください。メイン・メニューまたはDOSプロンプトの画面に戻ります。

ファイル名の変更はこれで終わりです。"TEXT.NW"が「テキスト」という名前に変更されたことを確認しましょう。

4 次のコマンドを入力してください（ハード・ディスクのシステムの場合はかっこ内）。

dir B: (dir a:)

データ・ディスケットの内容の中から"TEXT.NW"が消え，代わりに「**テキスト**」が追加されています。

（空白ページ）

付　　録

1. 特定のプリンターを使用する場合の措置
2. 時計機能を使用するには……。
3. メニューを表示しないようにするには……。
4. 他のドライブにあるプログラムを実行するには……。
5. JIS'83 年版のフォントを使用するには……。
6. 用語集

1. 特定のプリンターを使用する場合の措置

プリンターが，フォント・カートリッジの無い5572-B01，5575-B01，5575-F01である場合は，この節の作業は必要ありません。

DOSは周辺装置（プリンターなど）を操作するために，それぞれの装置に合ったプログラム（**装置駆動ルーチン**と呼びます）を使用します。DOSディスケットまたはハード・ディスク内のDOSには，周辺装置の標準的な機種に対応する装置駆動ルーチンの使用が設定されていますが，他のプリンターを使う場合，設定を変更しなければなりません。

プリンターの設定の変更の手順を以下に説明します。なお，ディスケット・ドライブのシステムの場合は，**DOSディスケットの1枚目だけ**を使用します。ディスケットの書き込みスイッチは，**書き込み可能**にしておいてください。

1. プリンターの設定の変更は，"CONFIG.SYS"というファイルの中で行います。メモ帳機能でファイルの修正をしますが，この機能では，エクステンションが".NW"のファイルしか扱えませんので，"CONFIG.SYS"を一度"CONFIG.NW"という名前にします。メイン・メニューで，次のコマンドを入力してください。

   ```
   rename config.sys config.nw
   ```

2. どれかキーを押してメイン・メニューに戻ってください。

3. メイン・メニューから「**メモ帳**」を選んでください。メモ帳メニューが表示されます。

4. メモ帳メニューから「**読込**」を選んでください。ファイル・リストが表示されます。

5. ファイル・リストから"CONFIG.NW"を選んでください。ファイルが読み込まれ，内容が表示されます。

6 表示されている内容の中から，"DEVICE=$PRN…"という行を探し出し，次のように修正してください。

```
DEVICE=$PRN24E.SYS
```

注）上記は，5572-B01，5575-B01，5575-F01**の各機種においてフォント・カートリッジ付きの場合**の指定です。これ以外の機種の場合は，参照編の第4章「DEVICE コマンド」の説明を参照してください。

7 メニューから「**保存**」を選んでください。ファイル名の入力が求められます。

8 "CONFIG.NW"の名で保存してください。

9 メニューから「**終了**」を選んでください。終了の確認が求められます。

10 "YES"を選び，メイン・メニューに戻ってください。

11 次のコマンドを入力して，ファイルの名前を元の"CONFIG.SYS"に戻してください。

```
rename config.nw config.sys
```

以上で，標準以外のプリンターに対する設定が終了しました。変更した設定は，DOSを始動し直した後，有効です。

2. 時計機能を使用するには……。

メイン・メニューの「時計」機能を働かすためのプログラムは，通常はシステムに読み込まれません。これをシステムに読み込まれるようにするには，次の作業が必要です。なお，ディスケット・ドライブのシステムの場合は，**DOSディスケットの1枚目だけ**を使用します。ディスケットの書き込みスイッチは，**書き込み可能**にしておいてください。

1 「時計」機能の使用は，"CONFIG.SYS"ファイルの中で設定します。メモ帳機能でファイルの修正をしますが，この機能では，エクステンションが".NW"のファイルしか扱えませんので，"CONFIG.SYS"を一度"CONFIG.NW"という名前にします。メイン・メニューで，次のコマンドを入力してください。

```
rename config.sys config.nw
```

2 どれかキーを押してメイン・メニューに戻ってください。

3 メイン・メニューから「**メモ帳**」を選んでください。メモ帳メニューが表示されます。

4 メモ帳メニューから「**読込**」を選んでください。ファイル・リストが表示されます。

5 ファイル・リストから"CONFIG.NW"を選んでください。ファイルが読み込まれ，内容が表示されます。

6 表示されている内容に，新たに次の行を追加してください。

```
DEVICE=$CLOCK.SYS
```

7 CONFIG.SYSに加える情報はこれだけです。メニューから「**保存**」を選んでください。ファイル名の入力が求められます。

8 "CONFIG.NW"の名で保存してください。

9 メニューから「**終了**」を選んでください。終了の確認が求められます。

10 "YES"を選び，メイン・メニューに戻ってください。

11 次のコマンドを入力して，ファイルの名前を元の"CONFIG.SYS"に戻してください。

```
rename config.nw config.sys
```

以上で，「時計」機能を使用するための設定が終了しました。変更した設定は，DOSを始動し直した後，有効です。

3. メニューを表示しないようにするには……。

メニューのプログラムを実行すると，記憶域の空き領域は 384K バイト程度になります。大きな記憶域を必要とする場合や，最初から DOS プロンプトを表示したい場合は，"AUTOEXEC.BAT"ファイルの名前を変更するか，またはこのファイルを削除します。以下に，"AUTOEXEC.BAT"ファイルの名前の変更，削除，および作成の手順を説明します。なお，ディスケット・ドライブのシステムの場合は，**DOS ディスケットの 1 枚目だけ**を使用します。ディスケットの書き込みスイッチは，**書き込み可能**にしておいてください。

"AUTOEXEC.BAT"ファイルの名前の変更

メモ帳機能で扱えるように，"AUTOEXEC.NW"という名前にしましょう。メイン・メニューまたは DOS プロンプトが表示されている画面で，次のコマンドを入力してください。

```
rename autoexec.bat autoexec.nw
```

これで，次回より，DOS を始動してもメニューは表示されません。なお，変更した名前を元の"AUTOEXEC.BAT"に戻せば，再びメニューが自動始動されるようになります。

"AUTOEXEC.BAT"ファイルの削除

1 メイン・メニューから「**道具箱**」を選んでください。道具箱メニューが表示されます。

2 道具箱メニューから「**削除**」を選んでください。削除パネルが表示されます。

3 削除パネルのファイル・リストから"AUTOEXEC.BAT"を選んでください。削除の確認が求められます。

4 "YES"を選んでください。ファイルが削除されます。

5 どれかキーを押して削除パネルに戻り，「**終了**」を何度か選んでメイン・メニューに戻ってください。

これで，次回より，DOSを始動してもメニューは表示されません。

"AUTOEXEC.BAT"ファイルの作成

1 "AUTOEXEC.BAT"ファイルを削除した後，再び自動的にメニューが表示されるようにしたくなった場合は，"AUTOEXEC.BAT"ファイルを作成します。メイン・メニューから「**メモ帳**」を選んでください。メモ帳メニューが表示されます。

2 次のようにファイルの内容をタイプしてください。

```
jmenu
```

3 メモ帳メニューから「**保存**」を選んでください。ファイル名の入力が求められます。

4 "AUTOEXEC"と付けてください。エクステンションは，自動的に".NW"になります。

5 メニューから「**終了**」を選んでください。終了の確認が求められます。

6 "YES"を選んでメイン・メニューに戻ってください。

7 次のコマンドを入力して，作成したファイルの名前を"AUTOEXEC.BAT"に変更してください。

```
rename autoexec.nw autoexec.bat
```

これで，次回より，DOSを始動したときメニューが表示されるようになります。

4. 他のドライブにあるプログラムを実行するには……。

DOSは，プログラムや外部コマンドの実行が指示された際，通常，省略時ドライブ（細かく言えばその現行ディレクトリー）しか検索の対象としませんので，該当するファイルがそこになければ，その機能は実行されません。

注） ディレクトリーは，最初からあるルート・ディレクトリー"¥"の他に，「**サブ・ディレクトリー**」として新たに自分で作ることができます。ディレクトリー間は切り替えることができ，現在対象となっているディレクトリーを「**現行ディレクトリー**」と呼びます。詳細については，参照編をご覧ください。

他のドライブにあるプログラムや外部コマンドを実行する場合は，省略時ドライブを変更するか，ファイル名の頭に，"B:"や"A:"のようなドライブ指定子（およびディレクトリー）を付けて入力する必要があります。また，そのプログラムを，プログラム名の前にドライブ指定子（およびディレクトリー）を付けて「登録」すれば，機能を選択するだけで実行できます。しかし，省略時ドライブを変更したりドライブ指定子を指定するのは面倒ですし，登録できるファイルの数は限られています。

他のドライブのプログラムや外部コマンドを実行するには，PATHコマンドを使うのが便利です。これにより，DOSは，指定されたドライブ（およびディレクトリー）を，省略時ドライブに続いて検索するようになります。省略時ドライブがAでBドライブへのパスを作る場合（ハード・ディスクのシステムの場合は，省略字ドライブがCでAドライブへのパスを作る場合）を例に，この使い方を説明します。

1 メイン・メニューから「終了」を選び，DOSプロンプト画面を表示してください。

2 次のように入力してください（ハード・ディスクのシステムの場合はかっこ内）。

```
path b:¥          ( path a:¥ )
```

注）"¥"はルート・ディレクトリーを意味します。これは省略も可能で，省略した場合は，現行ディレクトリーを意味します。

3 これでパスが設定されました。以降，DOS は，指示されたプログラムや外部コマンドのファイルを，省略時ドライブ，パスで指定したドライブの順に検索します。"JMENU"を入力して仕事を続けてください。

現在指定されているパスは，パラメーターなしの PATH コマンドを入力することで求められます。すなわち，

```
path
```

と入力すれば，DOS は指定されているパス値を返します。

一度指定したパスは，再設定するか電源を切ると消去されます。頻繁に使用するパスは，"AUTOEXEC.BAT"ファイルに指定して，起動時に設定するようにするとよいでしょう。これには，前節の"AUTOEXEC.BAT"ファイルの作成の要領で，"JMENU"の前に上記の PATH コマンドを入れておきます。

なお，パスは，複数指定することもできます。詳細については，参照編をご覧ください。

5. JIS'83 年版のフォントを使用するには……。

日本語 DOS は，特に指定しなければJIS'78年版のフォント（字体）を使用します。フォントには，この他にJIS'83年版があります。JIS'83年版は，JIS'78年版と比べて次のような違いがあります。

- 第 1 水準，第 2 水準間で 24 文字の入れ替え
- 漢字 11 文字に対する文字パターンの変更
- 新しい特殊文字 69 文字と，新しい漢字 4 文字の追加

JIS'83年版の使用を指定する手順を以下に説明します。なお，ディスケット・ドライブのシステムの場合は，**DOS ディスケットの 1 枚目だけ**を使用します。ディスケットの書き込みスイッチは，**書き込み可能**にしておいてください。

1 JIS'83年版のフォントの使用は，"CONFIG.SYS"ファイルの中で設定します。メモ帳機能でファイルの修正をしますが，この機能では，エクステンションが".NW"のファイルしか扱えませんので，"CONFIG.SYS"を一度"CONFIG.NW"という名前にします。メイン・メニューで，次のコマンドを入力してください。

```
rename config.sys config.nw
```

2 どれかキーを押してメイン・メニューに戻ってください。

3 メイン・メニューから「**メモ帳**」を選んでください。メモ帳メニューが表示されます。

4 メモ帳メニューから「**読込**」を選んでください。ファイル・リストが表示されます。

5 ファイル・リストから"CONFIG.NW"を選んでください。ファイルが読み込まれ，内容が表示されます。

6 表示されている内容に，新たに次の行を追加してください。

```
DEVICE=$JIS83.SYS
```

7 CONFIG.SYSに加える情報はこれだけです。メニューから「**保存**」を選んでください。ファイル名の入力が求められます。

8 "CONFIG.NW"の名で保存してください。

9 メニューから「**終了**」を選んでください。終了の確認が求められます。

10 "YES"を選び，メイン・メニューに戻ってください。

11 次のコマンドを入力して，ファイルの名前を元の"CONFIG.SYS"に戻してください。

```
rename config.nw config.sys
```

以上で，JIS'83年版のフォントの使用のための設定が終了しました。変更した設定は，DOS を始動し直した後，有効です。

6. 用語集

DOS	日本語 DOS，ディスク・オペレーティング・システム
DOS ディスケット	「日本語 DOS/BASIC/フォント 24　その 1」ディスケットおよび「日本語 DOS/BASIC/フォント 24　その 2」ディスケット（「日本語 DOS/BASIC/フォント 24　その 1」ディスケットのみを表す場合もあります。）
DOS プロンプト	何かが入力されるのを待っているときに DOS が表示するメッセージ。また，DOS プロンプトは省略時ドライブも示す。
DOS コマンド	DOS に仕事を指示するために，DOS プロンプトに対して入力する命令。
ディスケット	フロッピー・ディスクとも呼ばれる記憶媒体，本書では特に 3.5 インチのものを指す。
ハード・ディスク	固定ディスク，または単にディスクと呼ばれるシステム・ユニットに組み込まれた記憶媒体。
ディスク	ハード・ディスク，またはディスケットとハード・ディスク。
ドライブ	ディスケットやハード・ディスクとデータのやり取りをするための装置。
省略時ドライブ	特定のドライブを指定しないで DOS に仕事を指示した場合に使われるドライブ。DOS プロンプト中に表示される。
タイプする	キーを押して画面に文字を表示すること（「入力する」とは区別する）。
入力する	文字列をタイプした後，[↵]キーを押して DOS に伝えること。

ファイル	DOSが1単位として扱う，関連した情報の集まり。1つのプログラム，同種類のデータ郡，一連の文章（テキスト）などがファイルを構成する。
ディレクトリー	DOSがファイルを効率よく管理するために使う登録簿。ディスケットやディスクの最初の部分に作られ，ファイル名，ファイルの大きさ，開始位置，作成年月日などの情報が収められている。

（空白ページ）

索　引

あ 行

アイコン　1-4
エクステンション　3-2

か 行

外部コマンド　1-9
カーソル　1-5
キー
　[後退]~　1-7
　[削除]~　1-7
　[実行]~　1-6
　[終了]~　1-7
　[取消]~　1-7
　[ページ印刷]~　3-5
　[PF12]~　1-7
　[↵]~　1-6, 1-9
　[⇆]~　1-6, 1-8
　[↑]~　1-7
　[↓]~　1-7
キーワード　1-8
機能　1-4
コマンド　1-8
　~行　1-5
　~処理プログラム　3-8
　外部~　1-9
　内部~　1-9
　COMP ~　5-4
　COPY ~　5-2
　DEL ~　5-6
　DISKCOMP ~　2-6
　DISKCOPY ~　2-4
　DIR ~　3-4
　ERASE ~　5-6
　FORMAT ~　2-8
　MODE ~　5-10
　PRINT ~　5-8
　RENAME ~　5-12
　TYPE ~　3-6

さ 行

始動　1-2
省略時ドライブ　1-11
装置駆動ルーチン　付-2
装置名　5-9

た 行

ディレクトリー　3-4
テキスト・ファイル　3-7
ドライブ指定子　3-3

な 行

内部コマンド　1-9
入力
　~シフト　4-2
　かな~　4-3
　ローマ字~　4-3

は 行

バックアップ　2-2
　~ディスケット　2-2

パラメーター　1-8
ファイル　3-1
　～名　3-2
ファンクション・キー　1-5
フォーマット　2-3
プロンプト　1-10

ま 行

メイン・メニュー　1-3

や 行

ら 行

ロード　1-2

英 字

AUTOEXEC.BAT　3-9, 付-6
COMP コマンド　5-4
CONFIG.SYS　3-9
COPY コマンド　5-2
DEL コマンド　5-6
DISKCOMP コマンド　2-6
DISKCOPY コマンド　2-4
DIR コマンド　3-4
DOS
　～コマンド　1-8
　～プロンプト　1-10
ERASE コマンド　5-6
FORMAT コマンド　2-8
JCALC.EXE　3-9
JCALEN.EXE　3-9
JCLOCK.EXE　3-9
JMENU.EXE　3-9
JNOTE.EXE　3-9
JTOOL.EXE　3-9
PRINT コマンド　5-8
PRN　5-9
TYPE コマンド　3-6

数 字

2進ファイル　3-7

のりしろ

日本語 DOS ユーザーズ・ガイド 入門編
N:SC18-2160-1

読者の声

下記のアンケートにお答えいただき，ご意見をお知らせくださるようお願いいたします。お寄せいただいたご意見は，今後の弊社の製品の開発および改良のために有効に使わせていただきます。

A. この本を読む前，あなたはどの程度コンピューターの経験がありましたか？
1. 相当複雑なプログラムが書けた　2. 簡単なプログラムが書けた
3. パソコン,ワープロ等の操作経験のみ　4. ほとんど経験無し

B. この本に期待した情報は，すべて記載されていましたか？
1. はい　2. いいえ　3. 分らない
「いいえ」と答えた方は，何が不足していたのかをお書きください。

C. この本は，どの程度役に立ちましたか？
1. 非常に役に立った　2. 少しは役に立った　3. 普通
4. ほとんど役に立たなかった　5. 全然役に立たなかった
この本の中で特に役に立った部分はどこですか？

この本の中で特に役に立たなかった部分はどこですか？

D. この本に対するあなたの満足度をお知らせください。
1. 非常に満足　2. 満足　3. 普通　4. 不満　5. 非常に不満
100 点満点として，あなたの満足度はどのくらいですか？ ________点

E. この本をどのように改善すれば，もっと役に立ちますか？

F. その他，ご意見ご希望等ありましたらお書きください。

ご協力ありがとうございました。

のりしろ　のりしろ

のりしろ

料金受取人払

大和郵便局
承認
66

差出有効期間
平成2年11月
14日まで

（切手を貼らずに
お出しください）

242-□□

神奈川県大和市下鶴間1623番地の14

日本アイ・ビー・エム株式会社
大和研究所 資料開発 行

折込み線

切り取り線

〒 ー
ご住所

貴社名／所属

ご芳名

電話番号 ー ー （内線 ）

N:SC18-2160-1

日本アイ・ビー・エム株式会社
東京都港区六本木3−2−12 〒106
TEL (03) 586-1111 (代)

Printed in Japan